



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL: 03-5363-3802 FAX: 03-3355-4707
発行者：北川雄光
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁 (慶應義塾大学医学部外科学教室)
印刷：株式会社 dig TEL: 03-3551-3060
年 2 回発行 1995 年 4 月創刊

歴史の上にある ISS/SIC

北里大学名誉教授
ISS/SIC 名誉会員

比企能樹



それぞれの国や大学、施設などに創始以来の歴史があるように、ISS/SIC と称される当学会にも 100 年を越す歴史があり、それは先人が爾々と積み上げてきた資産である。昔の事なんか終わったことで現在と将来の方がうんと大切だという声も聞こえるが、歴史を無視して繁栄が成ったということは聞いたことがない。年長者の義務として、ISS/SIC と日本支部との関わりをほんの少しだけ辿りたいと思う。

1901 年に本学会はベルギー王立外科学会の有志が欧州の外科学者に呼びかけ国際学会 ISS/SIC 万国外科学会を創立した。1905 年にはスイスのベルン大学教授コッヘルを会長 Congress President に戴き、第 1 回総会がブリュッセルで開催された。参加は 24 ヶ国、637 人、その内訳はフランスの 116 名を筆頭に圧倒的に欧州が多く、米国からは 63 名、日本人は最も少なく 3 名と記録にある。因みに当時、各々の先進国に国内の外科学会があったのは 17 ヶ国で、英国を筆頭にドイツ、ロシア、米国の順で設立され、日本は 1899 年に設立され、世界第 9 番目である。

公式に日本外科学会から ISS/SIC に初めて日本代表を送ったのは 1926 年第 7 回のローマ大会であった。その 2 年前 1924 年 3 月 31 日、東京で開催さ

れた日本外科学会評議員会の席上、ISS/SIC 会員に東京帝大・近藤次繁、塩田広重、東北帝大・関口蕃樹、新潟大・杉村七太郎、北大・秦勉吉、京都帝大・伊東隼三、鳥潟隆三、磯部喜右衛門、九州帝大・三宅速、後藤七郎、赤岩八郎、岡山大・泉伍郎の 12 名が推挙され、三宅速が、初代 ISS/SIC 日本代表としてローマに派遣された。折しもドイツ、ハンガリー、オーストリー 3 国は、第一次大戦を起した責任を世界から厳しく問われた。ISS/SIC でも 3 国は除名処分を受けたのだが、ISS/SIC 日本代表の三宅は、学問の世界に政治を持ち込むべきではないと 3 国の学会復帰嘆願書を作成し日本の会員をはじめ、自ら世界を回ってメイヨ兄弟、MGH・Cushing、St.Louis・Graham など世界トップの外科医の署名を集め、翌年見事に 3 国の学会復帰させた事実が、2000 年に学会創立 100 年を記念して出版された記念誌で 10 ページもの紙面を割き明らかにした。

その後、阪大・久留勝、慶大・前田友助はじめ日本人外科医が当学会に出席したが、不幸にも第二次大戦に突入し、戦中戦後の国際学会への参加は難しかった。しかし 1977 年京都において日医大・斉藤潤を Local President として開催されると、世界最古の学会として当学会への出席は若い外科医を大いに鼓舞した。そして日本代表となった東大・出月康夫が積極的に学会活動を行い ISS/SIC の運営に理事として活躍した後、学会全体を統括する Congress President として日本から初めて選出され、日本外科学会を積極的にアピールした。出月を継いだ日本代表そして ISS/SIC 理事として北里大・比企能樹が就任し、その後は帝京大・山川達郎が日本代表から理事、慶大・北島政樹が理事となって日本支部は大いに学会運営に尽力してきたが、その成果として 2007 年に北島が日本から二人目の Congress President となった。4 代にわたる日本代表が、30 年ぶりの日本での学会開催へ招致活動を懸命に行ってきた結果、遂に 2011 年に横浜で Local President として北里大・渡邊昌彦が開催できた。現在では、慶大・北川雄光が理事・日本支部長として新たな活動を展開している。

(文中敬称略)

ISS/SIC-Japan への期待

帝京大学医学部名誉教授、客員教授

山川達郎



万国外科学会日本支部会は、大正 15 年（昭和元年）、西暦 1926 年、Rome で開催された第 7 回 ISW に出席された三宅 速先生、近藤次繁先生、塩田広重先生、関口蕃樹先生、杉村七太郎先生、秦 勉吉先生、伊東隼三先生、鳥潟隆三先生、磯辺喜右衛門先生、後藤七郎先生、赤岩八郎先生、泉 伍郎先生ら 12 名により、結成されました。しかし、この日本支部会の活動は、第 1 次ならびに第 2 次世界大戦時と 1945 年にはじまる終戦後の混乱期もあって途絶、その後、世界に目を向け、ISW を招致する機運が芽生えたのは、1960 年代後半に入ってからのことです。そして、日本が、第 27 回 ISW1977 年の開催国に選出されたのが、Barcelona での ISW1973 でありました。そして同時に、LOC の Chairman に故 斎藤 潤先生が指名され、石川浩一先生 (Scientific Committee)、島田信勝先生 (Financial Committee)、駿河敬次郎先生 (Liaison Committee)、綿貫 喆先生 (Steering Committee) らを委員とする準備委員会が結成され、そして昭和 52 年 9 月 3 - 8 日、本邦では、初めてとなる第 27 回万国外科学会 (ISW1977) が、故 斎藤 潤教授を会長として、京都で開催されました。日本人の発表は、50 題で、その中には、今は亡き懐かしい先輩のお名前を拝見することができます。京都都ホテルで開催された会長招宴の参加者は、日本人を含めて、

300 人程度で、小規模なものでありましたが、駿河敬次郎教授のご司会のもと、外国からの参加者は、東洋独特な雰囲気のある心のこもった日本の御もてなしを楽しんでおられたことが想い出されます。

これは私にとっては、初めての日本国内で開催された国際学会で、緊張して臨んだことが、今、懐かしく想い出されます。私は、恩師 四方淳一名誉教授と連名で、当時、開発した胆道ファイバースコープを用いた術後胆道鏡による遺残胆管あるいは肝内結石の非観血的切石術について報告いたしましたが、ご司会は、Prof. S. Benmark と中山文男教授でありました。この会の抄録集をみると、この半世紀の驚異的な外科学の進歩を実感させられます

私は、この ISW1977 中に、日本医科大学時代の恩師、斎藤 潤先生にご署名をいただき、1979 年、入会を果たし、その後、ISS/SIC の President 出月康夫先生と日本支部長 比企能樹先生のもとで日本支部事務局長に指名された 1995 年以来、日本支部事務局長、支部長 (2001 ~ 2007)、Councilor (2007 ~ 2011) を務めさせていただきました。日本支部事務局長時代、Vienna での第 38 回 ISW1999 で、当時、故 出月康夫教授は ISS/SIC 会長を、また比企能樹先生は、ISS/SIC 日本支部長をお勤めでありましたが、日本の ISW 招致の意を表明したことや、また在任中には、出月康夫先生ならびに北島政樹先生が、それぞれ ISW1995、ISW2007 の President に選出されたこと、さらに、アカブルコでの ISW1995 で石川浩一先生が、またモントリオールでの ISW2007 年で比企能樹先生が名誉会員に選出されたことなどなど、色々な想い出が走馬灯のように駆け巡ります。そして、Prof. Kenneth D. Boffard 会長のもと、渡邊昌彦教授を LOC 会長として開催された ISW2011 をもって、私の任務を全うすることができました。これまで賜った日本支部会会員諸兄の御指導とご支援に改めて感謝申し上げる次第です。日本 ISS/SIC は、現理事をお勤めの北川雄光教授のご活躍で、確固たる地位を維持していますが、会員の皆様のご協力により、一日も早く、本邦 3 度目となる ISW が実現することを期待してやみません。

World Journal of Surgery 誌の Associate Editor として

国立がん研究センター中央病院 胃外科
科長

片井 均



北島政樹名誉会員から、突然電話をいただいたのは、ポーランドで国際胃癌学会が開催された 2009 年の 3 月のことでした。World Journal of Surgery 誌の Editor in Chief の Dr. John Hunter が胃癌関係の Associate Editor を探しているの引き受けてみないかとのことでした。100 年以上の歴史をもつ万国外科学会の機関誌の AE をきちんと務め上げることができるか、いささか不安を感じましたが、たいへん名誉なことなので応募することにしました。

「引き受ける」ではなく「応募する」と書いたのには、実はわけがあります。AE として採用されるには、実はオーディションが必要だったのです。過去にすでに多くの査読をしている reviewer には必要ないのですが、私の場合は査読の数が少なかったため Dr. Hunter が guest reviewer として数か月のお試し期間をもうけました。幸い 6 月には合格通知をいただき、Dr. Hunter 直々に Skype を使用して査読用ソフトの使用法を伝授していただきました。Skype の使用法もマスターしちょっと得をした気もしました。

WJS は 1977 年が創刊です。general surgery の雑誌ですが、general Surgery に資する専門的な論文も積極的に採択しています。論文がダウンロー

ドされている地域は、北米、ヨーロッパ、アジア太平洋地区でそれぞれ 1/3 で文字通り WJS といえます。Dr. Hunter は 5 代目の EIC となります。彼が就任してから IF は上昇し 2007 年の 1.8 から 2010 年には 2.7 と上昇しました。ちなみに外科系学術誌の IF の median は 1.4 です。現在の採択率は約 30% ですが、よりよい論文のみをさらに採択し、採択率を下げることも検討されています。日本からの投稿の採択率はだいたい 25% 程度です。

AE 会議は、毎年開かれ私の楽しみのひとつです。万国外科学会の開かれる年は会場で、間の年はいろいろな都市で開催されます。2010 年ワシントン、2012 年ローザンヌ、2014 年はオレゴンの予定です。この会に出席すると、Dr. Hunter の WJS に対する熱意にいつも圧倒され、牽引されてしまいます。AE も各分野、そうそうたるメンバーで Dr. Hunter にまけずおとらず WJS の発展のために、たいへん熱心で、論客ぞろいです。私自身も他の AE と大いに議論を楽しみ、日本の読者、投稿者の代弁者として意見を伝える努力をしています。

最近、査読して感じるのですが、不適切な手法で meta-analysis が行われた論文投稿が増えてきています。大規模試験の生データを使用した meta-analysis は確かに高いエビデンスを提供しますが、不適切なものは誤った結果を導くことになります。このような論文には、統計の専門家の助けを借りて、投稿者にわかりやすいコメントをつけてお返ししています。しかしながら不適切な論文でも meta-analysis 論文は、いったん学術誌に掲載されると引用回数が多く、私が不採用にした論文が他の雑誌に受理され、引用回数が多いと複雑な気持ちです。

IF はもちろん重要ですが、科学的妥当性があり、WJS の理念にあった論文をひとつでも多く、適切に revise、accept していきたいと思っています。

第36回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2013 年 11 月 22 日金曜日 午前 7:15 ~ 8:00

於： 名古屋国際会議場 3 階 135 会議室

出席者：池田 正、石川秀樹、井本 滋、岩中 督、遠藤 格、大杉治司、沖永功太、小澤壯治、北川雄光、北島政樹、木村 理、國崎主税、熊谷一秀、桑野博行、國土典宏、後藤満一、小林道也、佐野 武、島田光生、高見 博、田尻 孝、田中洋一、中村清吾、夏越祥次、橋爪 誠、馬場秀夫、原口義座、東口高志、比企直樹、比企能樹、堀口明彦、幕内博康、松井淳一、松原久裕、溝端康光、森 正樹、守瀬善一、矢永勝彦、吉川貴己、吉田和弘、若井俊文、若林 剛、和田則仁、渡邊昌彦

(敬称略、五十音順、計 44 名) (事務局：奥田京子)

1. 開会の挨拶 北川雄光日本支部長
2. 前回議事録の確認
3. 事務局からの報告 会員動向・支部活動。
4. ISW2013 ヘルシンキ報告

北川日本支部長：8 月 25 日から 29 日に開催され成功裏に終了した。皆様の協力により、日本から医師 258 名、同伴者 27 名、一般演題数 216 と、フィンランドを除いた国別で最多の参加数となった。ISW2011 横浜の余剰金を基に、若手の参加を支援する Yokohama Award を今大会から創設している。若林 剛先生、夏越祥次先生、森 正樹先生、渡邊聡明先生による厳正な審査の結果、新潟大学の坂田 純先生、中野雅人先生、横浜市立大学の木村 準先生、大田洋平先生、慶應義塾大学の田中真之先生の 5 名が受賞した。新潟大学、横浜市立大学からは多くの応募をいただいた。ISS/SIC 表彰では、北島政樹先生が ISS/SIC 名誉会員に推薦された。同じく北島先生の ISDS への長年の貢献を記念して若い外科医に対する ISDS Kitajima Prize が創設された。これらの祝賀も兼ね 8 月 25 日 Opening Ceremony 後に Japan Night を開催した。

5. Integrated Societies について

Alliance for Surgery and Anesthesia Presence (ASAP) の加入が承認され、今年より Integrated Society が 6 つとなっている。

ISDS 若林 剛先生：北川雄光先生が副会長に就任した。次回バンコクの大会のプログラム構成が始まるが、今回は日本の要望が通るよう今から準備をしていく。

IAES 高見 博先生：ISW ヘルシンキは ISW 会長が IAES 出身の Göran Åkerström で期待されたが、実際には欧米中心の構成となった。今回 IAES 会長は私とも親しい台湾の Chen-hsen Lee でありしっかり進めていく。

IASMEN 東口高志先生：副会長を大柳治正先生から私が引き継いだ。参加

人数が少なく、会員を増やすよう努めている。

IATSIC 溝端康光先生：IATSIC の日本メンバーを増やすため、日本外傷学会ホームページで IATSIC への入会案内を掲載し、現在 30 名程と会員も増加している。Definitive Surgical Trauma Care (DSTC) Course 第 2 回日本コースを 11 月に帝京大学で開催。今後も継続して行っていく。

6. 機関誌 (WJS) について

片井 均先生 (事務局代読)：Impact Factor 向上に向けて引き続き努力している。

7. World Congress of Surgery (WCS) 2015 (旧 ISW) について

北川日本支部長：ISW2015 は World Congress of Surgery (WCS) と名称を変え 2015 年 8 月 23 日～27 日にタイのバンコクで開催される。学術プログラムの準備は既に始まっている。この会はそれぞれの Integrated Society がプログラムを決める仕組みとなっており、Society 内の決定が重要である。Society ごとにリストにあるコンタクト先に連絡をとっていただきたい。

8. 次回支部総会日程について

次回の総会は恒例どおり日本外科学会最終日早朝を予定している。

以上 (文責 和田則仁)

会員動向 (2014 年 3 月 1 日現在)

会員数	368 名
内 訳	
正規会員	336 名
シニア会員	29 名
名誉会員	3 名

2013 年 新規会員 21 名

支部活動報告

(2013 年 1 月～12 月)

- 2013.3 北島政樹先生 ISS/SIC 名誉会員推薦
- 2013.4.1 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第 36 号発行
- 2013.4.13 第 35 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於：福岡サンパレス)
- 2013.8.25-29 ISW2013 Helsinki
 - 8.25 Japan Night 開催。日本人参加者懇親、北島政樹先生名誉会員受賞・Kitajima Prize 創設祝賀
 - 8.26 Early Morning Session にて Yokohama Award 受賞者表彰
- 2013.11.1 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第 37 号発行
- 2013.11.22 第 36 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於：名古屋国際会議場)

Definitive Surgical Trauma Care (DSTC) Course

DSTC-Japan コーディネーター
帝京大学救命救急センター講師

藤田 尚



The International Association for Trauma Surgery and Intensive Care (IATSIC) は the Société Internationale de Chirurgie (International Surgical Society) - ISS の主要な構成団体であり、北米を除いた外傷外科の組織では最大の世界規模の組織であります。

この IATSIC の主要メンバー医師が中心となって開発されたのが Definitive Surgical Trauma Care (DSTCTM) Course です。現在まで 24 カ国で 200 回以上のコースが開催されており、日本では、2013 年 2 月に第 1 回のコースが、2013 年 11 月に第 2 回目のコースが成功裏に無事終了しております。両コースともコースディレクターを、南アフリカの Kenneth Boffard 先生 (ISW2011 President) にお願ひし、帝京大学で行われました。これまでに日本人 15 名、韓国人 3 名が受講しております。

DSTC コースの開発の経緯につきまして、少し述べさせていただきます。北米を中心に行われている ATLS (Advanced Trauma Life Support) や、本邦で行われている JATEC (Japan Advanced Trauma Evaluation and Care) は、外傷初期診療の標準化を可能にし、いわゆる「Golden Hour」(受傷 1 時間以内) の治療成績向上に寄与してまいりました。一方、「Golden Hour」のあとの外傷治療についての、標準化されかつ系統だった教育は、どんどん細分化されていく臓器別の一般外科教育の中では不可能になってきているのが現状であります。この現実を憂い、IATSIC の主要メンバーが世界各国の外傷教育の現状を討議し ATLS に続くコースの必要性を確認し本コースを開発しました。

DSTC コースは外傷診療全般に対する教育コースで通常 3 日間行われております。開催国の事情で 2 日間に短縮したコースや、半日の講義を追加した軍医向けのミリタリーコースも提供されております。また外傷診療はチーム医療であるため、麻酔科医集中治療医 (non-surgeon) 向けのコースや、看護師向けのコースも存在いたします。DSTC は登録商標を得ており、「DSTC」と名乗るコース開催はスイスの ISS 本部の了承が必要です。本邦で現在行われているコースは外科医向けの 3 日間のオリジナル正規コースで、公式使用言語は英語です。

コースの概要ですが、「系統だった外傷総論」、「臓器別損傷の各論」、「実際のケース提示と臨床決断の討論」と「動物を使った外傷モデルでの手技教育」

がその中心となっております。受講要件は外科医であること、ATLS や JATEC などの初期診療コースを受講済みであることの 2 つです。受講料は 2013 年現在 18 万円です。特筆すべきは、DSTC のコース管理ルールでは、外国人講師はどんなにご高名な外科医であってもエコノミークラスで往復すること、自国での休業補償は求めないこと、実施国での報酬はないこと、が明記されております。これまで 7 人の外国人講師が、本当の意味でのボランティア精神で来日してくださっており、感謝の念を言葉では表せませんでした。

世界的に有名な外科医とウェットラボで時間を共有できる貴重な体験は、かならずや受講生のキャリアアップにつながるものと確信しております。第 3 回コースは 2014 年 6 月 27 日から 3 日間、帝京大学で行う予定です。

お問い合わせ ; DSTC-Japan@med.teikyo-u.ac.jp ,



善意と医療のかけ橋



日本血液製剤機構
Japan Blood Products Organization
<http://www.jbpo.or.jp>



プロトンポンプ・インヒビター エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル

ネキシウム®カプセル 10mg 20mg

薬価基準収載

処方せん医薬品^(注)

^(注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元(資料請求先)
第一三共株式会社
東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造販売元(資料請求先)
アストラゼネカ株式会社
大阪市北区大淀中1丁目1番88号
0120-129-115
(受付時間) 9:00~17:00 (土日祝日を除く)

2013年4月作成

胃炎・胃酸過多治療剤
セルベックス® 50mg/10%
(デブレン製剤)

胃炎・胃酸過多治療剤
パリエット® 10mg 20mg
(ナトリウム塩)

販売元
エーザイ株式会社
〒112-8588 東京都文京区小塚4-6-15
<http://www.eizai.co.jp>

商品情報お問い合わせ先: エーザイ株式会社 お客様ホットライン
0120-419-431 9~18時(土、日、祝日9~17時)

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご参照ください

PRT0904 1C 2009年4月作成

2013 年収支決算書

2014 年度予算案 (2014 年1月1日～12月31日) ISS/SIC

2013 収支決算書 (2013 年 1 月 1 日～12 月 31 日) ISS/SIC			
日本円の部 単位：円			
I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費	902,000	1,078,338	8200 ユーロ
広告掲載料	700,000	700,000	
寄付	0	0	
雑収入	0	1,598	
当期合計	1,602,000	1,779,936	
前年度繰越金	9,727,893	9,727,893	
収入合計	11,329,893	11,507,829	
II 支出の部			
会議費	360,000	269,094	支部総会開催（春・秋）
通信費	180,000	137,789	
印刷費	520,000	443,730	支部ニュース 36 号・37 号
文具費	30,000	7,949	
交通費	90,000	71,920	
人件費	360,000	360,000	
雑費	12,000	18,075	
予備費	50,000	0	
Yokohama Award 賞金	500,000	500,000	
支出合計	2,102,000	1,808,557	
収支残高	9,227,893	9,699,272	（次年度繰越金）
ユーロの部 単位：ユーロ			
収入の部	予算額	決算額	備考
会費	9,500.00	8,716.80	
利息	0	0.61	
前年度繰越金	7,123.56	7,123.56	
収入合計	16,623.56	15,840.97	
支出の部			
日本円へ預替	8,200.00	8,200.00	
スイス本部寄付	1,300.00	1,300.00	
支出合計	9,500.00	9,500.00	
次年度繰越金	7,123.56	6,340.97	
残高 日本円 9,699,272 円（通帳残高 9,652,294 円＋現金 46,978 円）			
ユーロ 6,340.97 ユーロ（通帳残高 6,340.97 ユーロ）			
ISS/SIC 万国外科学会 日本支部			
2014 年 2 月 5 日 監事 田中雅大			
2014 年 2 月 13 日 監事 田原 孝			

日本円の部		単位：円	ユーロの部		単位：ユーロ
収入の部	予算額	備考	収入の部	予算額	備考
ユーロから預替	962,000	7400 ユーロ 1 ユーロ =130 円で計算	会 費	8,700.00	
広告掲載料	700,000		利 息	0	
寄 付	0		繰越金	6,340.97	
雑収入	0		収 入 合 計	15,040.97	
利 息	0		支出の部		
当 期 合 計	1,662,000		日本円へ預替	7,400.00	
前年度繰越金	9,699,272		スイス本部寄付	1,300.00	
収入合計	11,361,272		支 出 合 計	8,700.00	
支出の部			次年度繰越金	6,340.97	
会 議 費	380,000	総会 2 回分			
通 信 費	180,000				
印 刷 費	460,000	ニュースレター 2 回発行分			
文 具 費	10,000				
交 通 費	100,000				
人 件 費	420,000				
雑 費	12,000				
予 備 費	100,000				
支 出 合 計	1,662,000				
収支残高 (次年度繰越金)	9,699,272				

ヤンセンファーマ株式会社
URL: <http://www.janssen.co.jp>

私たちが目指すもの： それは、違いをもたらすこと

私たちの大きな使命。それは、今なお応えきれず、患者さんたちが切望する課題に取り組み、これを解決することです。

ヤンセンがとりわけ注力しているのは、5 つの大きな治療領域—神経科学、感染症、腫瘍（がん）、免疫疾患および疼痛—です。

さらに、当社の製品ポートフォリオは、その他の重要な領域についても扱っています。

私たちは「人を助ける人」でありたい。

—統合された知識と資源を使いこなし、卓越した科学の力と可能性に投資して、世界中の人々の寿命と QOL を向上させるために全社一体となって取り組んでいます。

ヤンセンの名のもとに、私たちはあらゆる患者さんのために全力で科学を追求します。

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤

プロイメント®

点滴静注用 150mg

PROEMEND

注1) 注意—医師等の処方せんに従って使用すること

注2) 注意—医師等の処方せんに従って使用すること

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先

小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

2013 年 3 月作成

「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 創薬、処方せん医薬品（注意—医師等の処方せんに従って使用すること）

アロキシ® 静注 0.75mg

Aloxi. i.v. injection 0.75mg

アロキシ® 点滴静注用バッグ 0.75mg

Aloxi. i.v. infusion bag 0.75mg

製造販売元 大鵬薬品工業株式会社

〒101-8444 東京都千代田区神田1-7-17
TEL: 0120-20-4527 FAX: 03-3293-2451
<http://www.taiho.co.jp/>

製造販売 大鵬薬品工業株式会社

TEL: 0120-20-4527 FAX: 03-3293-2451
<http://www.taiho.co.jp/>

2013 年 9 月作成

ここにあげたすべての処方せん医薬品は、「注意—医師等の処方せんに従って使用すること」。

効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 ノバルティス ファーマ株式会社

東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

資料請求先

NOVARTIS DIRECT

0120-003-293

受付時間：月～金 9:00～17:30
（祝日及び当社休業日を除く）
www.novartis.co.jp

2013 年 5 月作成

中外製薬

Roche ロシュ グループ

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

抗悪性腫瘍剤 創薬、処方せん医薬品（注1）

ゼロダ® 錠 300

カベシタピン錠

ゼロダ® の名は F. Hoffmann - La Roche社（スイス）登録商標

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF（注2）ヒト化モノクローナル抗体 生物由来製品、創薬、処方せん医薬品（注1）

アバスタチン® 点滴静注用 100mg/4mL

400mg/16mL

ベパシマブ（遺伝子組換え）注

AVASTIN

注1) 注意—医師等の処方せんに従って使用すること

注2) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先

製造販売元 中外製薬株式会社

〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。

<http://www.chugai-pharm.co.jp> 2014 年 2 月作成